

調査結果の概要

1 被調査者

被調査者は、男性 204 人、女性 316 人、合計 520 人で、全体の調査実施率は 38.4%であった。

(1) 年齢階級別状況 上段：人数（人） 下段：受診率（%）

| 歳 | 1~4 | 5~9 | 10~14 | 15~19 | 20~24 | 25~29 | 30~34 | 35~39 | 40~44 | 45~49 | 50~54 | 55~59 | 60~64 | 65~69 | 70~74 | 75~79 | 80~84 | 85~ | 総数 |
|----|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 男 | 5 50.0 | 14 51.9 | 18 46.2 | 2 6.3 | 4 16.0 | 3 18.8 | 5 20.0 | 9 28.1 | 10 27.7 | 12 30.8 | 9 23.1 | 22 34.4 | 20 32.3 | 17 47.2 | 23 52.3 | 16 40.0 | 11 37.9 | 4 26.7 | 204 33.4 |
| 女 | 11 73.3 | 11 57.9 | 13 40.6 | 4 10.0 | 7 26.9 | 9 32.1 | 11 45.8 | 7 28.0 | 18 40.9 | 20 38.5 | 31 50.0 | 31 50.8 | 32 50.8 | 27 55.1 | 26 50.0 | 32 51.6 | 20 37.0 | 6 16.7 | 316 42.5 |
| 合計 | 16 64.0 | 25 54.3 | 31 43.7 | 6 8.3 | 11 21.6 | 12 27.3 | 16 32.7 | 16 28.1 | 28 35.0 | 32 35.2 | 40 39.6 | 53 42.4 | 52 41.6 | 44 51.7 | 49 51.0 | 48 47.1 | 31 37.3 | 10 19.6 | 520 38.4 |

(2) 二次医療圏別状況 人数（受診率%）

| | 宇摩 | 新居浜・西条 | 今治 | 松山 | 八幡浜・大洲 | 宇和島 | 総数 |
|----|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 男 | 24 (40.7) | 18 (19.4) | 41 (35.7) | 45 (35.4) | 38 (41.3) | 38 (30.6) | 204 (33.4) |
| 女 | 26 (38.2) | 21 (23.9) | 61 (39.1) | 76 (49.0) | 70 (58.3) | 62 (39.5) | 316 (42.5) |
| 合計 | 50 (39.4) | 39 (21.5) | 102 (37.6) | 121 (42.9) | 108 (50.9) | 100 (35.6) | 520 (38.4) |

2 歯の状況

(1) 乳歯（1～14歳）

う歯のある者は 30.6%であった。1人平均未処置歯数は、0.2本であり、1人平均の未処置歯及び処置歯数（dft 指数）は、1.0本であった。

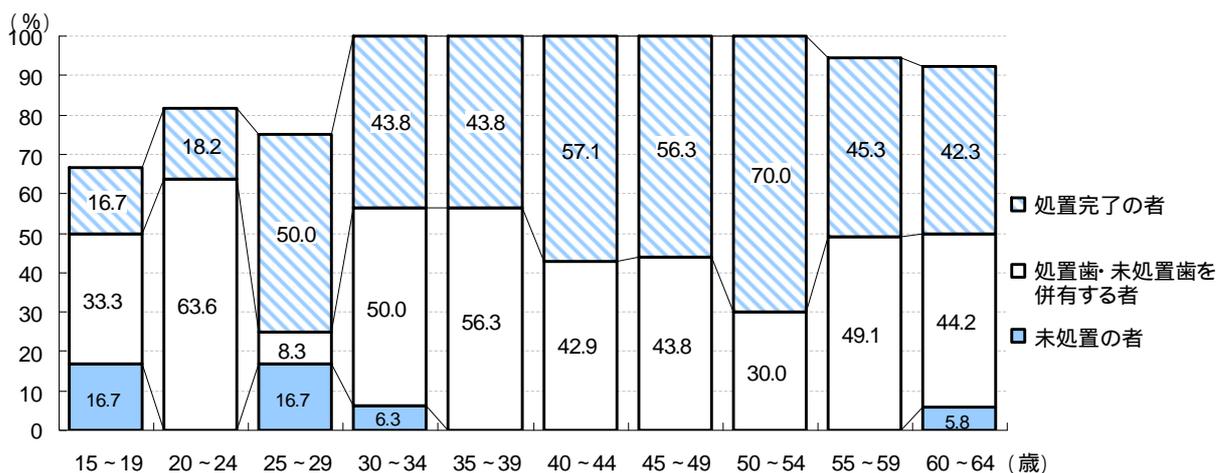
(2) 乳歯+永久歯（5歳～14歳）

う歯のある者は、62.5%であった。1人平均未処置歯数は0.6本であった。

(3) 永久歯（5歳以上）

ア う歯のある者

30～54歳までは、全ての者にう歯があった。（図1）



イ 1人平均 DMF 歯数

加齢に伴い1人平均 DMF 歯数は増加していた。処置歯の本数は50～54歳まで増加し、その後減少し、65歳以降は喪失歯が処置歯より多かった。(図2)

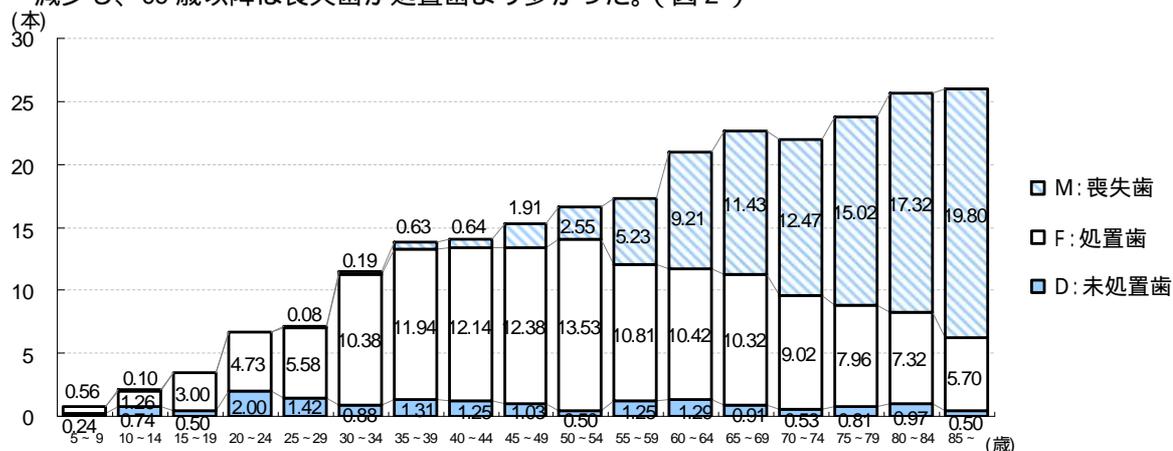


図2 1人平均DMF歯数

ウ 1人平均喪失歯数

男性では、50歳代から60歳代にかけて喪失歯が急激に増加しているものの、60歳以降は大きな変化はみられなかった。女性では年齢を経るごとに喪失歯が増加していた。(図3)

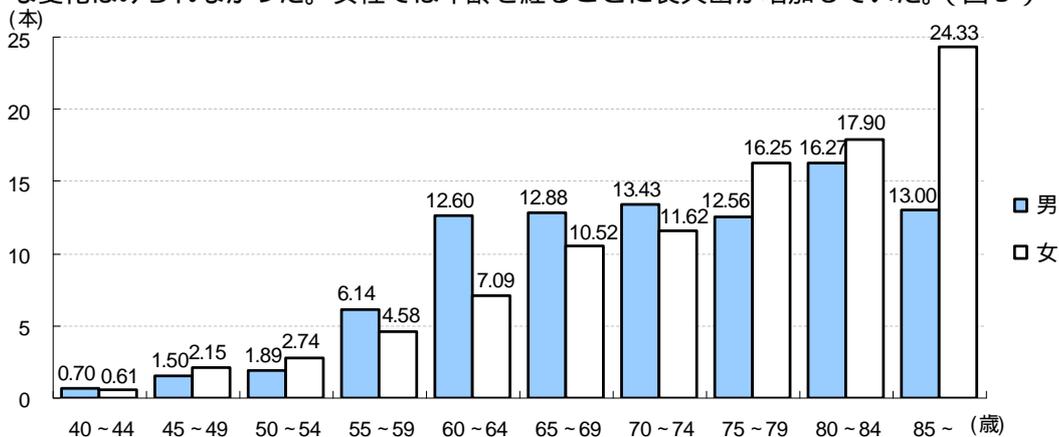


図3 1人平均喪失歯数

エ 20本以上歯を有する者の割合

20本以上歯を有する者は60歳を超えると減少し、75歳を超えると半数以下であった。なお、80歳で20本以上歯を有する者は33.3% (推定値)であった。(図4)

75～79歳と80～84歳の年齢階級別の数値を単純平均した値

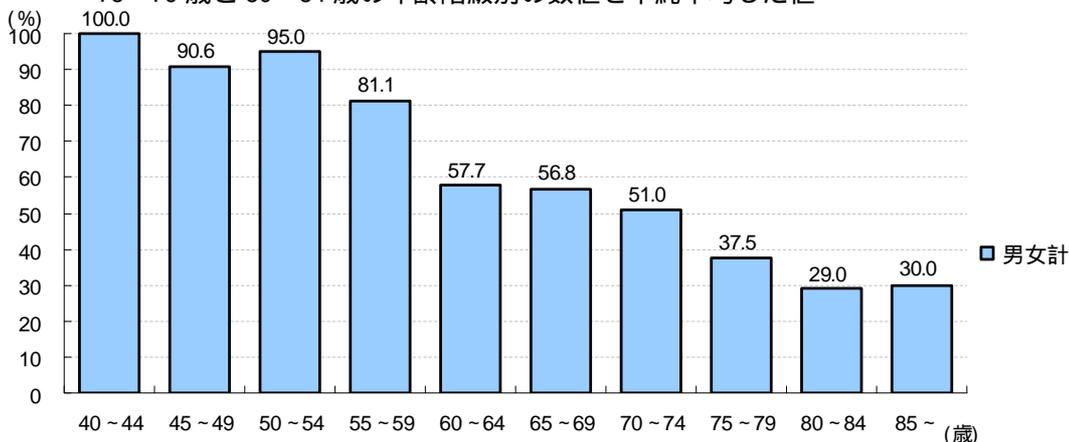


図4 20本以上歯を有する者の割合

オ 1人平均現在歯数

1人平均現在歯数は加齢に伴い減少し、60歳を超えると平均歯数が20本を下回っていた。

なお、80歳の1人平均現在歯数は、11.97本(推定値)であった。(図5)

75~79歳と80~84歳の年齢階級別の数値を単純平均した値

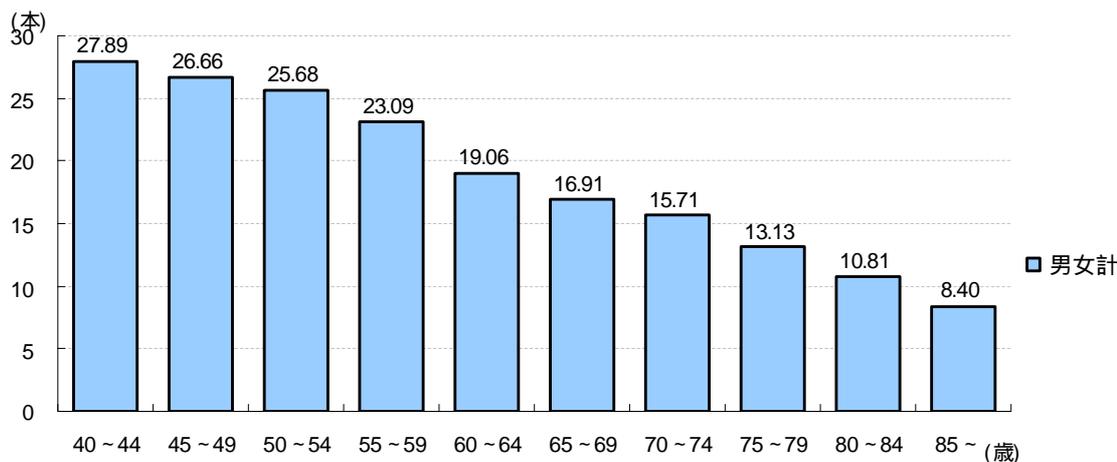


図5 1人平均現在歯数

(4) 義歯(架工義歯、部分床義歯、全部床義歯)

架工義歯の装着は35歳以降からみられ、60~64歳まで増加し、その後減少していた。

部分床義歯は、45~49歳以降からみられ、75~79歳まで増加し、その後減少していた。

全部床義歯は、55~59歳以降からみられ、以降年齢を経るごとに増加していた。

(注 1人で複数の義歯を装着している者もみられた。)(図6)

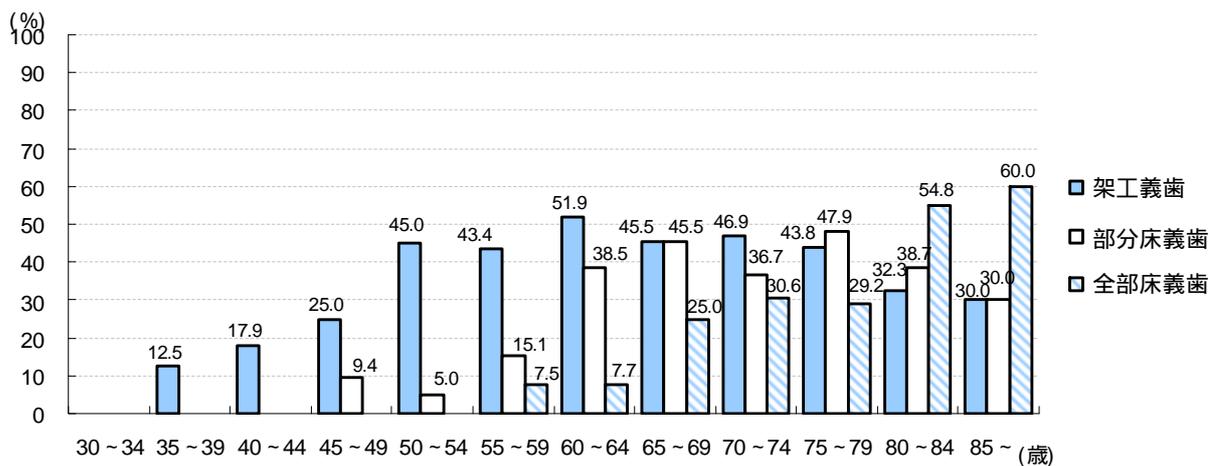


図6 義歯装着者の割合

3 歯肉の状況（5歳以上）

歯肉に何らかの所見のある者は30～69歳では70%を超えており、10歳代では50%以上であった。

（図7）

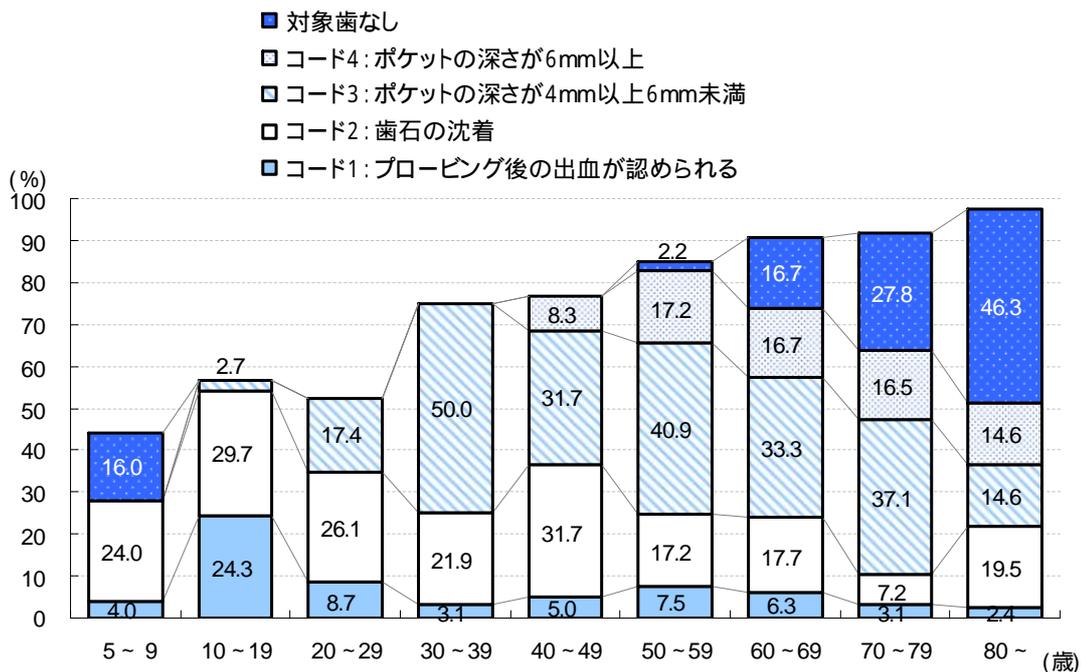


図7 歯肉の状況

4 歯列・咬合の状況（12～20歳）

(1) 叢生

叢生がある者は26.7%で、下顎のみの叢生が最も多かった。

(2) 空隙

空隙がある者は13.3%で、上顎のみが最も多く、下顎に空隙がある者はいなかった。

(3) オーバージェット

0.5mm以上4mm未満の者が全体の半数以上を占めた。4mm以上6mm未満も約1/4おり、6mmを超える者もいた。

(4) オーバーバイト

0.5mm以上4mm未満の者が全体の半数以上を占めた。4mm以上6mmも1/4近くおり、6mmを超える者もいた。

(5) 正中のずれ

0mmが最も多く6割以上であった。次いで2mm、1mm、3mmの順で、4mm以上はいなかった。

5 問診の結果

(1) 歯ブラシの使用状況 (1歳以上)

全体としては、1日3回みがくが最も多く40.2%、次いで1日2回であった。男女別でみると、男性では1日2回みがく者、女性では1日3回みがく者が最も多いという結果であった。(図8)
 また、女性の25歳~64歳では、ほとんどの年代で半数以上が1日3回以上みがいているが、男性の15歳~39歳では、1日3回以上みがく者がいなかった。

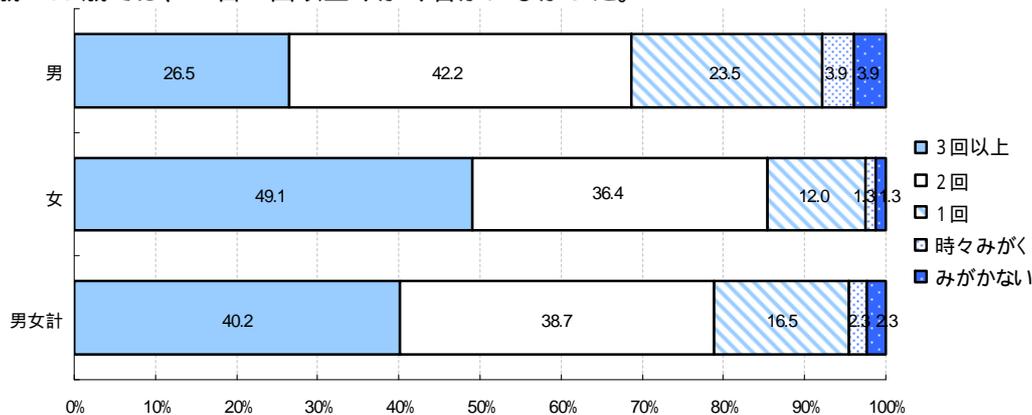


図8 歯ブラシの使用状況

(2) フッ化物の塗布状況 (1~14歳)

フッ化物塗布を受けたことがある者は63.9%で、医療機関で受けた者が最も多く55.6%、次いで市町村保健センター等であった。(図9)

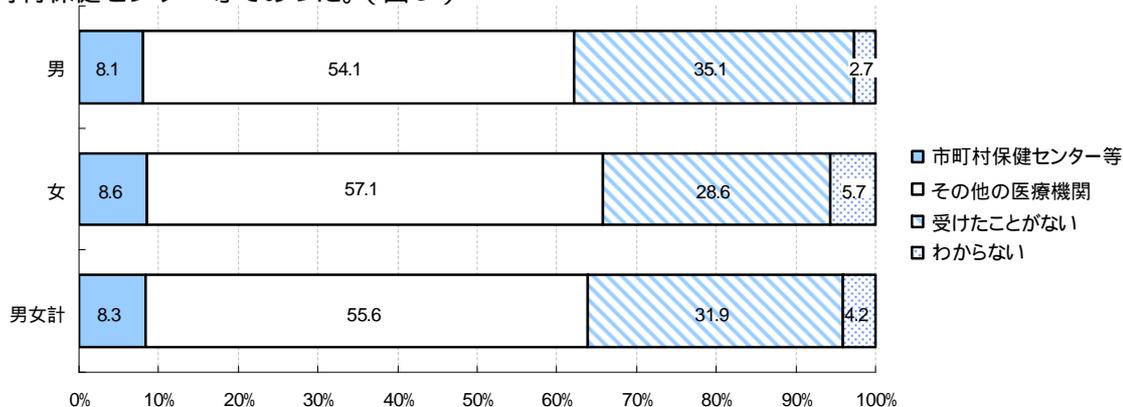


図9 フッ化物の塗布状況

(3) 顎関節の異常 (15歳以上)

あごの音がする者は、男性で13.8%、女性で17.8%、全体で16.3%であった。(図10)

あごの痛みがある者は、男性で0.6%、女性で3.2%、全体で2.2%であった。(図11)

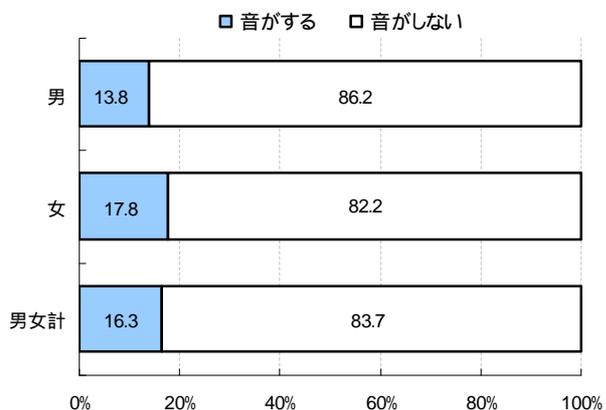


図10 顎関節の異常(音)

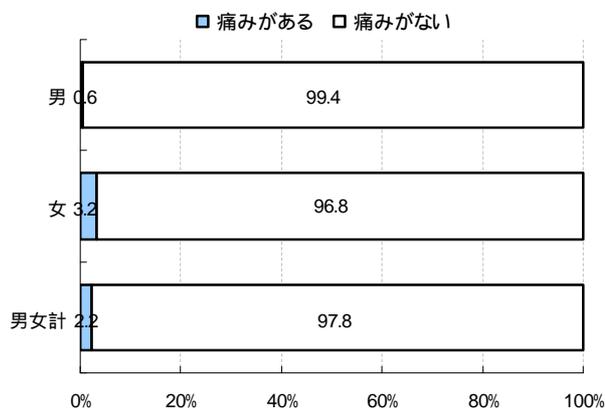


図11 顎関節の異常(痛み)

6 クロス集計

(1) 歯ブラシの使用状況と歯肉の状態 (5歳以上)

歯肉の状態が健康な人ほど1日3回以上歯みがきを行う者の割合が高かった。(図12)

(対象歯のない者は除く)

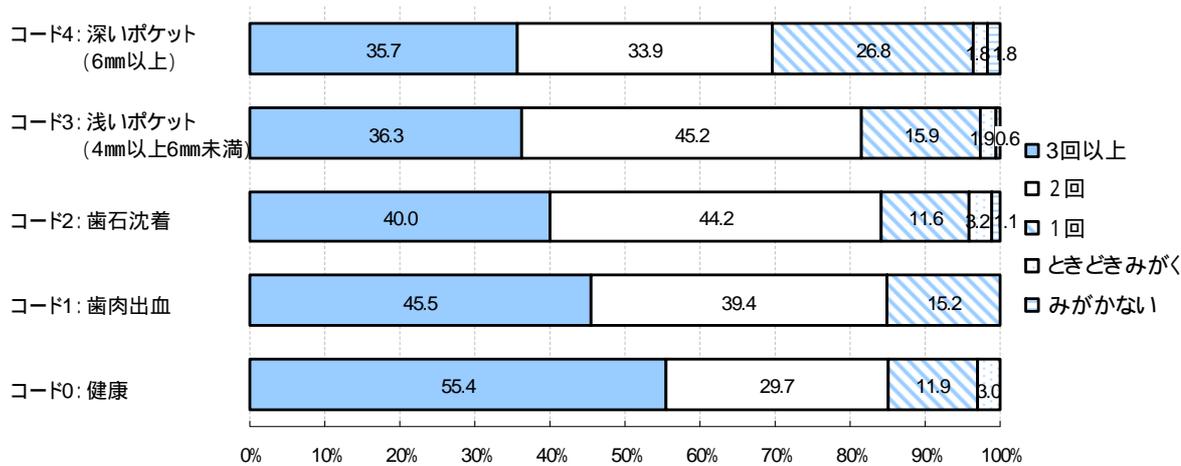


図12 歯ブラシの使用状況と歯肉の状態

(2) フッ化物塗布の状況とう歯の有無 (1~14歳、永久歯)

う歯がない人の方がフッ化物塗布を受けたことのある割合が高かった。(図13)

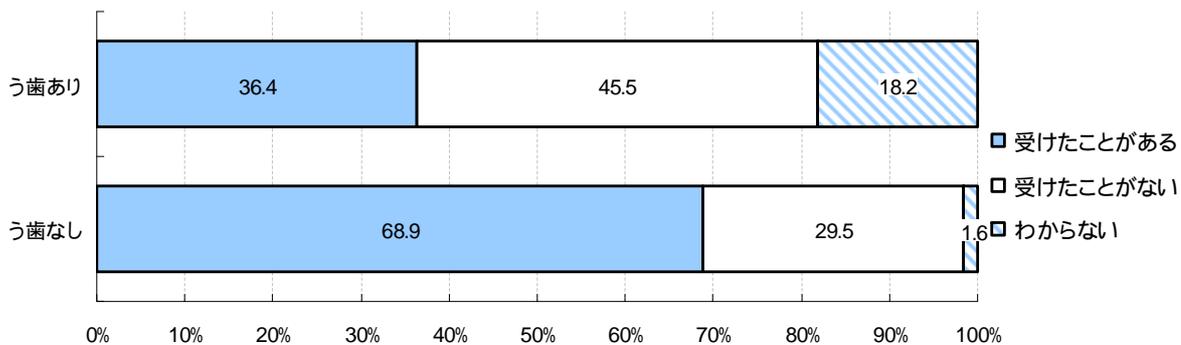


図13 フッ化物塗布の状況とう歯の有無